** 2017年11月（第４版　新記載要領に基づく改訂）
* 2016年 6月（第３版）

医療機器承認番号　22000BZX00085000

機械器具３　医療用消毒器
管理医療機器　液体用高圧蒸気滅菌器（JMDNｺｰﾄﾞ：41450010）
特定保守管理医療機器（設置管理医療機器）

サクラ薬液用高圧蒸気滅菌装置　ΣⅢＹＲ-Ｏ-ＳＬ

【警告】

・装置、被滅菌物は高温になるのでヤケドに注意する。
・圧力が異常上昇したら蒸気バルブを閉じる。
・滅菌室内に人がいないことを確認する。

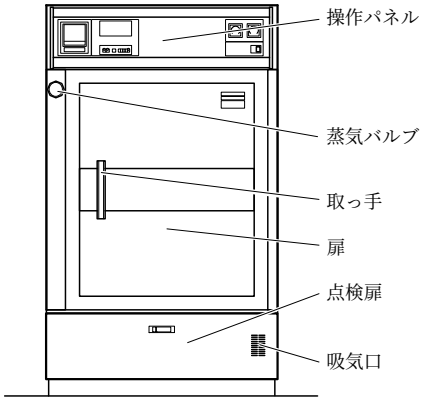
【禁忌・禁止】

・大気圧以上で扉を開放しない。
・装置内に引火性、爆発性物質を入れて使用しない。
・液体、液体の容器、医療用器具以外の物は滅菌しない。
・人体に有毒な液体、腐食性のある液体は滅菌しない。
・液体入り容器を急冷したり衝撃を加えない。

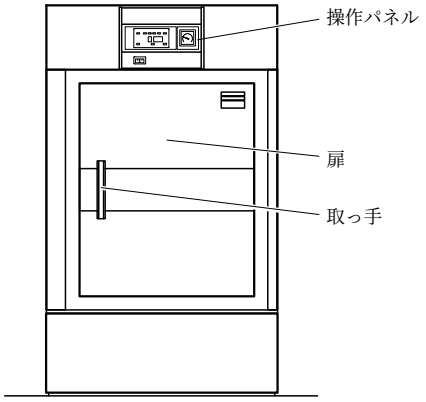
【形状・構造及び原理等】

［本体］

本図は代表例です。仕様により実際の装置と異なる場合があります。

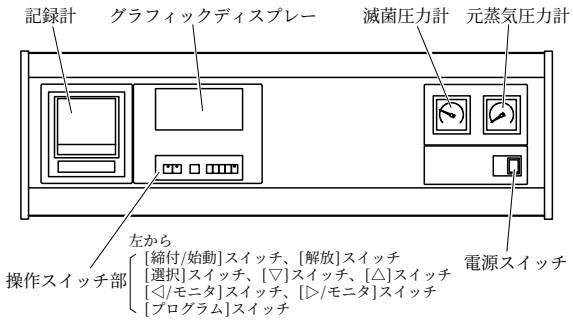


操 作 側

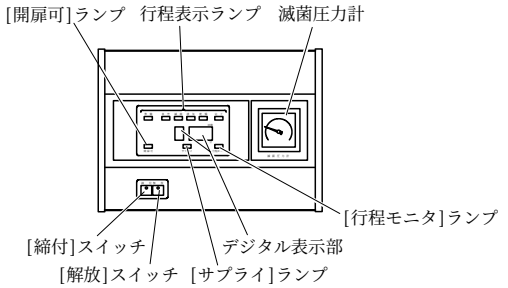


反操作側(両扉仕様の場合)

［操作パネル］



操 作 側



反操作側(両扉仕様の場合)

［必要とする設備］

* 電源設備

AC100V	１５A
接地端子	D種以上

給蒸設備

型　式	06	09(W)･12(W)
圧　力	０.４～０.５ MPa	
容　量	80kg/h以上	120kg/h以上

給水設備(容量は最小値)

型　式	06	09	09W	12	12W
圧　力	０.２～０.４ MPa				
容　量	35L/min	47L/min	49L/min	59L/min	61L/min
温　度	２０℃ 以下				

圧縮空気設備

圧　力	０.５～０.６ MPa
容　量	３０L/min ANR 以上
温　度	４０℃ 以下

排気・排水設備

方　式	単独屋外排気・排水
配　管	ＳＧＰ５０Ａ 以上

取扱説明書を必ずご参照ください。

［動作原理］

運転が開始されると、滅菌室内に蒸気が流通され、空気の排出とともに、被滅菌物が所定時間加温される。

次に、滅菌室内に蒸気を入れて滅菌を行う。所定時間が経過すると、滅菌室内の蒸気を徐々に外部に排出（低速排気）する。その後、設定時間が経過し、サンプル温度が冷却温度以下に低下するまで放置冷却を行う。所定温度になると運転が終了となり、ブザーと「開扉可」表示灯で報知する。

異常が発生すると、装置はより安全な状態に移る動作をするとともに、警報表示とブザーで使用者に報知する。

【使用目的又は効果】

微生物を不活性化する滅菌剤として湿熱(通常、蒸気)を利用し、密閉容器中の液体を滅菌するために用いる装置をいう。

【使用方法等】

以下の手順の詳細は取扱説明書の第４章をご参照ください。

① 操作側の扉を開き、滅菌室内、排気ストレーナー及び扉パッキンに、傷や汚れがないことを確認する。
② 電源スイッチを「入」にする。
③ 蒸気バルブを開く。
④ 滅菌プログラムを選択し、被滅菌物を入れる。
⑤ サンプルボトルをセットする。(「空ビン滅菌」は不要)
⑥ 扉を締め付ける。
⑦ 記録紙の残量を点検し、「始動可」状態を確認してから[締付/始動] スイッチを押す。

運転が開始されます。運転が完了すると、ブザーと画面表示（反操作側はランプ）でお知らせします。

以降は、片扉仕様と両扉仕様の場合に分けて記述します。

《片扉仕様の場合》

⑧ 記録紙で、正常終了であることを確認する。
⑨ 画面に「開扉可」が表示され、滅菌圧力計が「０」であることを確認する。
⑩ 扉を開き、被滅菌物を取り出す。
⑪ サンプルボトル内の液体温度を確認し、液温が低下したら廃棄する。(「空ビン滅菌」は不要)
⑫ 蒸気バルブを閉じる。
⑬ 電源スイッチを「切」にする。
⑭ 扉を閉じる。（締め付けない）

《両扉仕様の場合》

⑧ 記録紙で、正常終了であることを確認する。
⑨ 反操作側の［開扉可］ランプが点灯し、滅菌圧力計が「０」であることを確認する。
⑩ 反操作側の扉を開き、被滅菌物を取り出す。
⑪ 反操作側の扉パッキンにゴミや傷がないことを確認し、扉を締め付ける。
⑫ 操作側の扉を解放する。
⑬ サンプルボトル内の液体温度を確認し、液温が低下したら廃棄する。(「空ビン滅菌」は不要)
⑭ 蒸気バルブを閉じる。
⑮ 電源スイッチを「切」にする。
⑯ 操作側の扉を閉じる。（締め付けない）

【使用上の注意】

詳細は取扱説明書の第１章、第２章をご参照ください。

・薬液や洗剤の付着した物は滅菌しない。
・サビ、ゴミ、油脂等を含まない蒸気、水、圧縮空気を供給する。
・ドレーンの少ない蒸気を供給する。
・バイオロジカルインジケーターを用いて、必要な滅菌条件を決定する。

【保管方法及び有効期間等】

［使用環境］

周囲温度：１０～５０℃
相対湿度：３０～８５%RH（結露しないこと）
気　　圧：９５～１０６kPa

［耐用期間］

耐用期間：製造出荷後　１０年

条　　件：取扱説明書及び添付文書に記載された取扱注意事項あるいは保守・点検に係わる事項を順守し、定期的に日常点検・保守点検を実施すること。
点検結果により、下記に示す主要な構成部品や保守点検事項に記載された交換部品を必要に応じ交換すること。
保守部品として供給される主要な構成部品は下表の通り。

主要な構成部品名	使用耐用年数
扉駆動用モーター	５年
制御基板	４年
記録計	５年

※ここに記載した装置の耐用期間及び主要な構成部品の使用耐用年数は保証期間ではなく、上記の条件を満たした場合での平均的な年数となるため、使用環境、使用方法などにより異なります。

【保守・点検に係る事項】

［使用者による保守点検事項］

詳細は取扱説明書の第７章をご参照ください。

・滅菌圧力計	運転ごとに、扉を開いた状態で滅菌圧力計の指示が「０」からズレていないことを確認する。
・滅菌室内	１日に１回、水を含ませた布で滅菌室内を清掃した後、内壁を洗浄する。
・排気ｽﾄﾚｰﾅｰ	１日に１回、滅菌室内のストレーナーをタワシまたは歯ブラシで水洗いする。
・圧縮空気ﾌｨﾙﾀｰ	１日に１回、水抜きを行う。
・棚板・枠車	１週間に１回、固く絞ったガーゼ等で棚板両面とフレーム部分の汚れを拭き取る。
・扉パッキン	１ヶ月に１回、扉パッキンをガーゼ等で清掃し、傷等がないか点検する。また、半年に１回、新品と交換する。
・吸気口ﾌｨﾙﾀｰ	１ヶ月に１回、清掃済みのものと交換する。外したフィルターは水洗いする。
・定期自主検査	「ボイラー及び圧力容器安全規則」による点検を１ヶ月に１回行い、その記録を保管する。

取扱説明書を必ずご参照ください。

・性能検査　　「ボイラー及び圧力容器安全規則」による性能検査を１年に１回行う。

［業者による保守点検事項］

・給水ｽﾄﾚｰﾅｰ　定期的、または警報が出たとき、給水配管にあるストレーナーを清掃する。破損したり、目詰まりが除去できなくなったら新品と交換する。

・給蒸ｽﾄﾚｰﾅｰ　定期的、または警報が出たとき、給蒸配管にあるストレーナーを清掃する。破損したり、目詰まりが除去できなくなったら新品と交換する。

・エアフィルター　１年に１回、新品と交換する。

・バッテリー　交換時期を示すコメントが表示されたときに交換する。

****【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**

製造販売業者

名　　称：サクラ精機株式会社
電話番号：026-272-8381

製造業者

名　　称：サクラ精機株式会社

取扱説明書を必ずご参照ください。